

晩秋

(とびきり素敵なお話があるの...)

小さな女の子は落ち葉の中に
小犬を抱いて春を夢見る

(冬って嫌い)

それは多分北風のせいだったろう
ひとりと一匹が震えていたのは

(私、大人になったらね...)

小犬は黒い鼻をひくひくさせ
つぶらな瞳を少女に向け

(きっと哀しくなってしまうと思うの)

近づく鈴の音は迎えの馬車
小犬は聞き耳を立てる

(でも私、大人になるわ)

風が止まると陽光^{ひかり}は暖かく
少女はうとうとしはじめ

(ねえ、とびきり素敵なお話でしょう?)

迎えの馬車はまどろむ少女と小犬を乗せ
きっと暖炉の傍へ行くのです
春を夢見ながら

(1985.11.5)